

平成24年5月11日(金)

# 平成24年3月期 決算説明資料

株式会社 カネカ

もっと、驚く、みらいへ。

KANEKA

• 業績概要	P.	3
• 主要指標	P.	4
• 事業セグメント別 売上高・営業利益の状況	P.	5
• 連結貸借対照表	P.	12
• 連結キャッシュ・フロー計算書	P.	13
• 海外売上高	P.	14
• 為替変動の影響	P.	15
• 設備投資・減価償却費 / 研究開発費	P.	16
• 業績予想	P.	17
• トピックス	P.	19

(平成24年3月期 決算短信 サマリー情報、【添付資料】P. 2参照)

(単位：億円)

	23年3月期	24年3月期	増減額	24年3月期 前回予想
売上高	4,538	4,693	155	4,700
営業利益	212	132	△ 81	140
経常利益	210	127	△ 83	130
当期純利益	116	54	△ 62	55
為替レート (円/US\$)	85.73円	79.08円		77.00円
為替レート (円/EUR)	113.12円	109.02円		100.00円
国産ナフサ (円/KL)	47,500円	55,000円		52,000円 (第4四半期)

◎ 売上高は前連結会計年度に対して+155億円・3.4%の増収となりました。

◎ 利益は前連結会計年度に対して営業利益で△81億円・△38.1%、経常利益で△83億円・△39.7%、当期純利益は、特別利益として投資有価証券売却益等3,111百万円、特別損失として事業構造改善費用等4,417百万円を計上したことに加え、本年4月に実施された法人税率変更に伴い法人税等調整額が増加したことなどにより、△62億円・△53.5%の、それぞれ減益となりました。

	23年3月期	24年3月期
・ 売上高営業利益率	4.7%	2.8%
・ 売上高経常利益率	4.6%	2.7%
・ 売上高当期純利益率	2.6%	1.2%
・ 1株当たり当期純利益	34.28円	15.96円
・ ROE	4.6%	2.2%
・ ROA	4.7%	2.7%

	23年3月期末	24年3月期末
・ 自己資本比率	55.4%	53.0%
・ 1株当たり純資産	743.88円	734.61円
・ 有利子負債	666億円	747億円
・ D/Eレシオ	0.26	0.30

# 事業セグメント別売上高・営業利益の状況

(平成24年3月期 決算短信 サマリー情報、【添付資料】P. 18参照)

(単位：百万円)

<セグメント別>	売上高			営業利益		
	23年3月期	24年3月期	増減額	23年3月期	24年3月期	増減額
化成品	85,467	94,204	8,736	2,763	3,646	883
機能性樹脂	69,992	71,118	1,126	8,296	6,162	△ 2,133
発泡樹脂製品	58,630	57,590	△ 1,039	6,229	4,377	△ 1,851
食品	123,781	131,111	7,329	7,960	5,308	△ 2,651
ライフサイエンス	47,517	46,996	△ 520	9,279	8,428	△ 851
エレクトロニクス	41,225	38,027	△ 3,198	△ 5,815	△ 6,312	△ 497
合成繊維、その他	27,211	30,240	3,029	787	1,722	935
調整額	—	—	—	△ 8,267	△ 10,183	△ 1,916
計	453,826	469,289	15,462	21,235	13,151	△ 8,083

## <単独・子会社別>

単独	257,720	266,859	9,139	2,564	1,239	△ 1,325
国内子会社	265,885	278,952	13,067	13,185	9,407	△ 3,778
海外子会社	82,644	82,308	△ 335	7,875	5,892	△ 1,983
消去	△ 152,422	△ 158,831	△ 6,408	△ 2,390	△ 3,387	△ 996
計	453,826	469,289	15,462	21,235	13,151	△ 8,083

# 事業セグメント別売上高・営業利益の状況

(平成24年3月期 決算短信 【添付資料】P. 2・3参照)

◎当期の事業セグメント別の状況は以下の通りです。

## ・化成品事業

塩化ビニール樹脂は、原燃料価格の上昇及び円高の影響を受けましたが、国内市場向けの販売数量が増加し、販売価格の修正にも注力しました。塩ビ系特殊樹脂は、国内市場向けの販売数量が増加するとともにコストダウンなども寄与しました。か性ソーダは、国内市場向けの需要が増加しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は94,204百万円と前連結会計年度と比べ8,736百万円(10.2%増)の増収となり、営業利益は3,646百万円と前連結会計年度と比べ883百万円(32.0%増)の増益となりました。

## ・機能性樹脂事業

モディファイヤーは、国内市場・海外市場ともに需要が低調に推移した中で、製品差別化力の向上などにより増収を確保し、コストダウンなどの収益体質強化にも注力しましたが、原燃料価格の上昇及び円高の影響を強く受け減益となりました。変成シリコンポリマーは、国内市場の建築関連需要が堅調に推移し、国内向けの販売数量が増加、欧州及び北米向けも販売数量が前連結会計年度を上回り、原燃料価格の上昇及び円高の影響を吸収して増収増益となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は71,118百万円と前連結会計年度と比べ1,126百万円(1.6%増)の増収となりましたが、営業利益は6,162百万円と前連結会計年度と比べ2,133百万円(25.7%減)の減益となりました。

# 事業セグメント別売上高・営業利益の状況

(平成24年3月期 決算短信 【添付資料】 P. 3参照)

## ・発泡樹脂製品事業

発泡スチレン樹脂・成型品は、東日本大震災による東北・関東地域の水産分野の需要減少と原燃料価格上昇の影響を強く受けました。押出發泡ポリスチレンボードは、国内住宅用の販売数量が住宅版エコポイント制度の終了の影響などにより前連結会計年度を下回りましたが、原燃料価格上昇に対応した製造コストダウンと経費削減にも徹底して取り組みました。ビーズ法発泡ポリオレフィン<sup>①</sup>は、東日本大震災やタイの洪水災害に伴う自動車分野のサプライチェーン停滞などの影響を受け、日本・アジア・欧州市場ともに需要が低迷しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は57,590百万円と前連結会計年度と比べ1,039百万円(1.8%減)の減収となり、営業利益は4,377百万円と前連結会計年度と比べ1,851百万円(29.7%減)の減益となりました。

## ・食品事業

食品は、新製品の拡販、販売価格の修正やコストダウンに注力したものの、油脂等原料価格の上昇や消費者の節約志向が強まる中で低価格品へのシフトの影響を強く受けました。

以上の結果、当セグメントの売上高は131,111百万円と前連結会計年度と比べ7,329百万円(5.9%増)の増収となり、営業利益は5,308百万円と前連結会計年度と比べ2,651百万円(33.3%減)の減益となりました。

# 事業セグメント別売上高・営業利益の状況

(平成24年3月期 決算短信 【添付資料】 P. 3参照)

## ・ライフサイエンス事業

医療機器は、インターベンション事業の販売が順調に拡大しました。医薬バルク・中間体は、販売数量が低調に推移しました。機能性食品素材は、米国市場はじめ欧州・日本市場での高機能品の販売数量が増加するとともに、徹底したコストダウンに注力しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は46,996百万円と前連結会計年度と比べ520百万円(1.1%減)の減収となり、営業利益は8,428百万円と前連結会計年度と比べ851百万円(9.2%減)の減益となりました。

## ・エレクトロニクス事業

液晶関連製品は、新規用途の拡大などにより販売数量が増加したものの、超耐熱性ポリイミドフィルムは、東日本大震災及びタイの洪水災害によるサプライチェーン停滞の影響や世界的な景気減速に伴う需要不振により、販売数量が前連結会計年度を下回りました。太陽電池は、国内市場向けの販売数量は着実に増加しましたが、欧州市場の需要不振により海外向け販売数量が減少するとともに、競争の激化に伴う販売価格下落及び円高の影響を受けました。太陽電池関連部材は海外向けの販売数量が低調に推移しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は38,027百万円と前連結会計年度と比べ3,198百万円(7.8%減)の減収となり、営業損失は6,312百万円となりました。



# 事業セグメント別 売上高・営業利益の状況

(平成24年3月期 決算短信 【添付資料】P. 4参照)

## ・合成繊維、その他事業

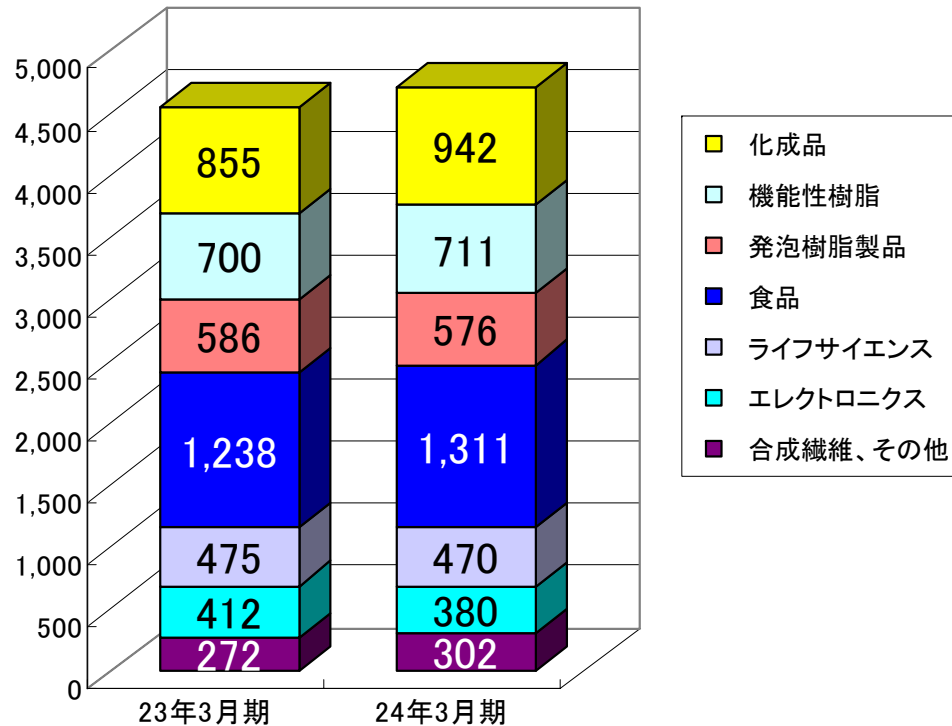
合成繊維は、円高及び原燃料価格の上昇の影響を強く受けましたが、海外市場の需要が拡大し、販売数量が増加するとともに、販売価格の修正やコストダウンなどの収益改善策に注力し、増収増益となりました。また、その他事業についても増益となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は30,240百万円と前連結会計年度と比べ3,029百万円(11.1%増)の増収となり、営業利益は1,722百万円と前連結会計年度と比べ935百万円(118.9%増)の増益となりました。

# 事業セグメント別売上高

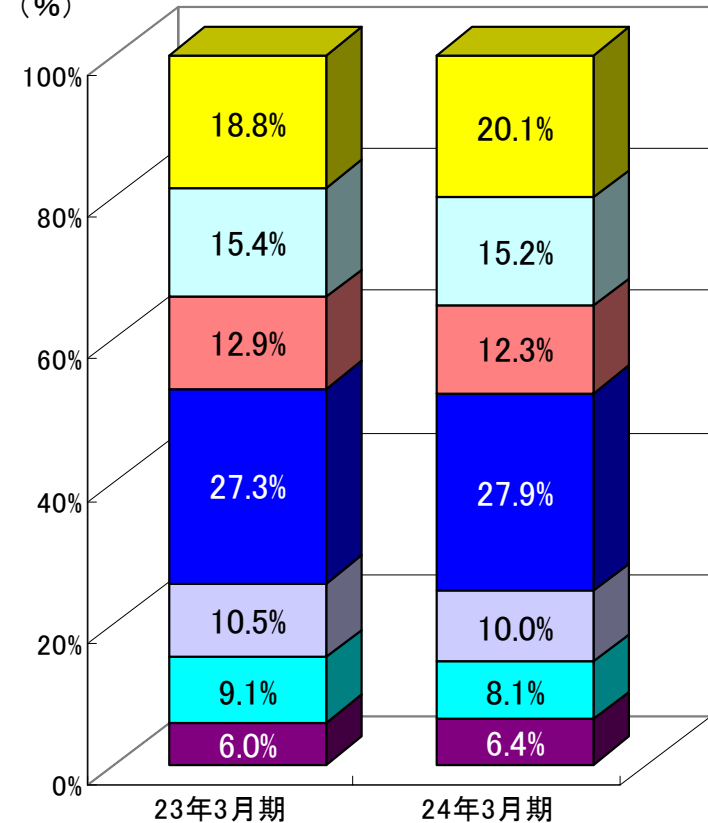
## セグメント別売上高

(億円)



## セグメント別売上高: 構成比

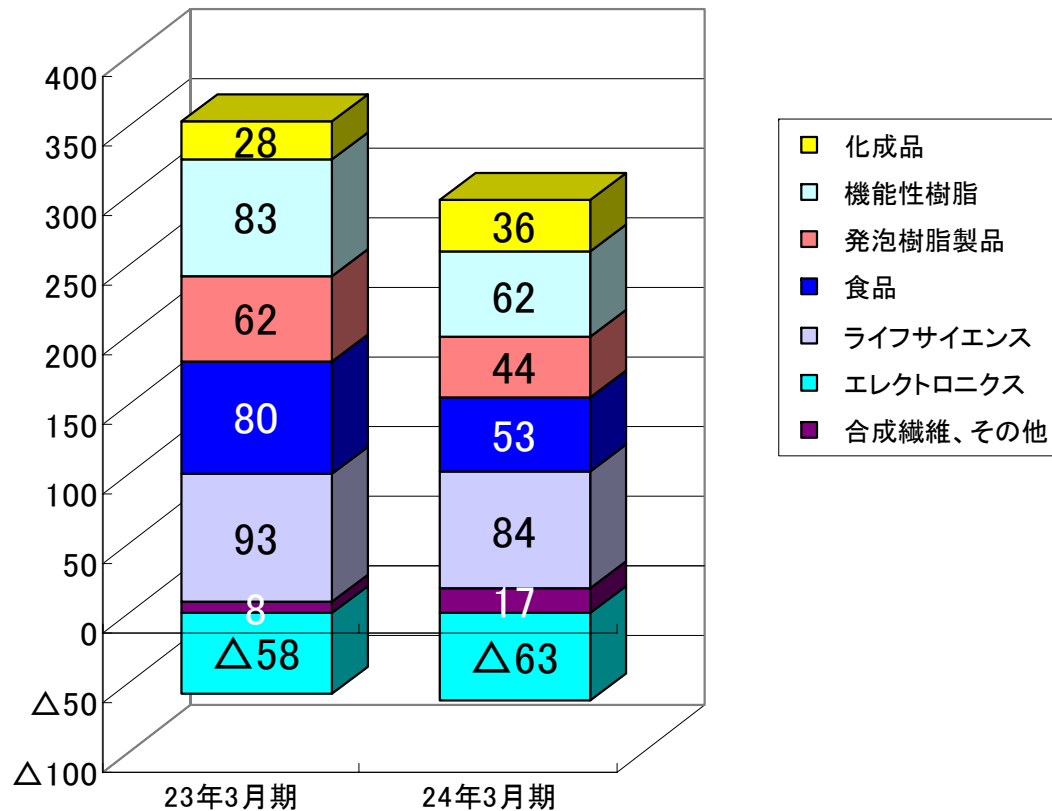
(%)



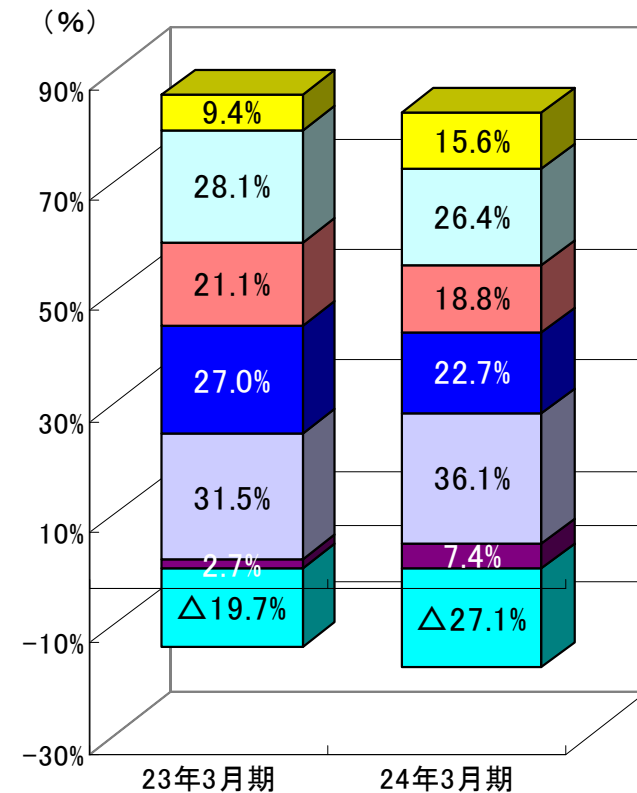
# 事業セグメント別 営業利益

## セグメント別営業利益

(億円)



## セグメント別営業利益: 構成比



(平成24年3月期 決算短信【添付資料】P. 7・8参照)

(単位：億円)

		23年3月期末	24年3月期末	増減額
資産	流動資産	2,224	2,360	136
	固定資産等	2,327	2,311	△17
	合計	4,551	4,671	119
負債	有利子負債	666	747	81
	その他	1,267	1,349	82
	合計	1,933	2,096	163
純資産	自己資本	2,521	2,475	△46
	少数株主持分 他	97	99	2
	合計	2,618	2,575	△44
負債、純資産 合計		4,551	4,671	119
D/Eレシオ		0.26	0.30	

※自己資本：純資産から少数株主持分と新株予約権を除外したもの

- ◎ 総資産は、前連結会計年度末に比べて119億円増の4,671億円となりました。
- ◎ 有利子負債残高は、81億円増加し747億円となりました。
- ◎ 純資産は、自己株式の増加とその他の有価証券評価差額金、為替換算調整勘定の減少などにより、44億円減の2,575億円となりました。

# 連結キャッシュ・フロー計算書

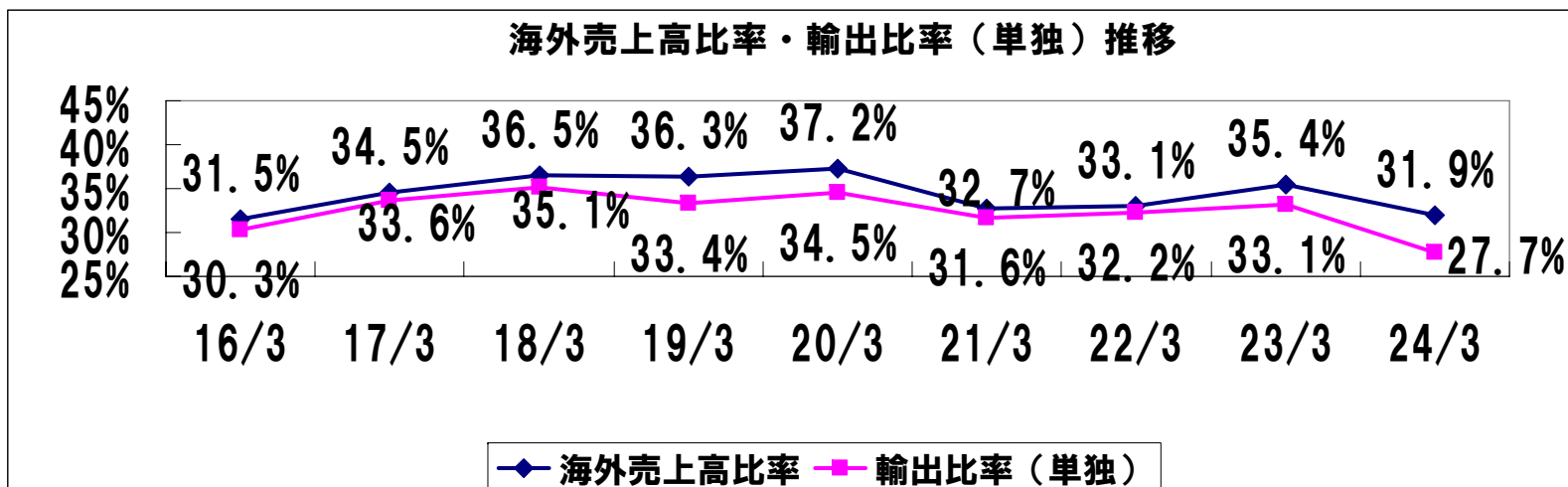
(平成24年3月期 決算短信【添付資料】P. 14・15参照)

(単位：億円)

	23年3月期	24年3月期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	349	158	△ 191
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 349	△ 281	69
フリー・キャッシュ・フロー	△ 0	△ 122	△ 122
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 43	20	64
現金及び現金同等物の増減 (含 換算差額)	△ 35	△ 98	△ 63
現金及び現金同等物の四半期末残高	370	272	△ 98

- ◎ 当連結会計年度における営業活動による資金の増加は、158億円となりました。その主な内容は、税金等調整前当期純利益114億円、減価償却費296億円等による資金の増加と、売上債権の増加額150億円、法人税等の支払額68億円等による資金の減少であります。
- ◎ 投資活動による資金の支出は、281億円となりました。その主な内容は、有形固定資産の取得による支出306億円と、投資有価証券の売却等による収入40億円であります。
- ◎ 財務活動による資金の収入は、借入の実施などにより20億円となりました。
- ◎ この結果、現金及び現金同等物の当連結会計年度末残高は、272億円となりました。

(平成24年3月期 決算短信【添付資料】P. 4参照)



（単位：億円）

	23年3月期	24年3月期	増減額	増減率
アジア	692	627	△ 65	△9.4%
北米	291	282	△ 10	△3.4%
欧州	450	424	△ 27	△5.9%
その他	174	162	△ 12	△6.6%
海外売上高計 （海外売上高比率）	1,608 (35.4%)	1,495 (31.9%)	△ 113	△7.0%

◎ 海外売上高は円高の影響を大きく受けて1,495億円と前連結会計年度に比べて減少しました。なお、海外売上高比率は31.9%となり前連結会計年度の35.4%を下回りました。

## 【期中平均レート】

(単位:円)

	23年3月期	24年3月期
米ドル	85.73	79.08
ユーロ	113.12	109.02

## 【通貨別影響額】

(単位:億円)

	売上高	営業利益
米ドル	△70	△26
ユーロ	△13	△2
その他	△8	△1
合計	△92	△29

- ◎ 為替は対ドル、対ユーロともに円高となり、前連結会計年度に対して売上高で△92億円、営業利益で△29億円の影響を受けました。

# 設備投資・減価償却費 / 研究開発費

(単位：億円)

	23年3月期 実績	24年3月期 実績	25年3月期 予想
設備投資	293	331	400
減価償却費	287	294	300
研究開発費	183	200	220

## ○主な設備投資

(単位：億円)

平成24年3月期 実績		平成25年3月期 予想	
塩ビへ-スト生産能力増強 (マレーシア)	17	ホ-リミト-フィルム生産設備新設 (マレーシア)	40
ウィング用合成繊維製造設備 (中国)	13	有機EL照明の開発用設備 (日本)	15
太陽油脂(株)設備・建屋更新 (日本)	12	塩ビへ-スト生産能力増強 (マレーシア)	11



(平成24年3月期 決算短信 サマリー情報、【添付資料】P. 4参照)

(単位：億円)

	24年3月期実績		25年3月期予想		前年比(通期)	
	上期	通期	上期	通期	増減額	増減率
売上高	2,348	4,693	2,400	5,000	307	+6.5%
営業利益	64	132	80	200	68	+52.1%
経常利益	58	127	75	185	58	+46.2%
当期純利益	28	54	40	100	46	+85.1%

◎ 今後の世界経済は、米国の景気改善や新興国の成長持続などにより緩やかな回復基調を維持することが期待される一方、欧州債務危機の再燃や原油価格の高騰、新興国の金融引き締めなどによる景気の下振れリスクも想定され、先行きの不透明感が強い情勢にあります。このような経済環境の中、当社グループは、事業構造の変革に向けた取り組みをさらに加速させ、収益体質の強化に取り組んでまいります。

【25年3月期：前提条件】

為替：80円/US\$、105円/EUR、国産ナフサ：60,000円/KL

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## 【セグメント別】

(単位：億円)

	売上高		営業利益	
	25年3月期予想		25年3月期予想	
	上期	通期	上期	通期
化成品	470	950	20	40
機能性樹脂	350	740	30	70
発泡樹脂製品	300	620	25	50
食品	640	1,320	25	55
ライフサイエンス	240	520	50	105
エレクトロニクス	250	540	△20	△20
合成繊維、その他	150	310	10	25
調整額	—	—	△60	△125
合計	2,400	5,000	80	200

## 【25年3月期：前提条件】

為替：80円/US\$、105円/EUR、国産ナフサ：60,000円/KL

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

- ポリイミドフィルム、マレーシアに新工場建設を決定
  - － 競争力強化、事業拡大を目指し、約80億円の設備投資へ－ 4月19日
- 菊花抽出物クリスフラボン®（機能性食品素材）の本格販売を開始
－ 4月5日- 千葉大学の「ソーラー・デカスロン・ヨーロッパ2012」出展に資材提供で協力
  - － 薄膜シリコン太陽電池、断熱材、有機EL照明など製品提供－ 4月2日
  
- 発泡ポリスチレン樹脂の価格修正について
  - － 4月10日出荷分より、キログラム当たり汎用品30円の値上げ－ 3月30日
- 中国人造皮革時尚創意連盟の創設と当連盟への参画
－ 3月29日- 塩化ビニール樹脂の価格修正について
  - － 4月11日納入分より、キログラム当たり15円以上の値上げ－ 3月14日
- 不凍タンパク質の冷凍麺市場での販売を開始
－ 関西大学との共同研究の成果－ 3月13日- 世界展開の更なる加速を目指してアジアおよび米州統括会社を設立
  - － 本年4月に中国、米国に開設予定－ 3月8日
- 透明感のある高耐熱樹脂シートを開発
  - － コンビニ弁当、惣菜容器のふた向けに新規素材を投入－ 3月6日
- Eurogentec社 米国食品医薬品局の査察を完了
  - － 米国市場向けバイオ医薬品の受託製造が可能に－ 3月1日
- 大阪モード学園とのコラボレーションを開始
－ ヘアデザインの開発を促進－ 2月29日

**kaneka**